


(政務調査費用)

出張報告書

平成29年12月4日

釧路市議会議長 渡辺 慶蔵 様

会 派 名 市政クラブ  
代表者名 松永 征明 

次のとおり、政務調査費による出張を終えましたので報告します。

受 命 者	松永 征明
出 張 先	沖縄県沖縄市
期 間	平成29年11月8日 ~ 平成29年11月11日 (4日間)
用 務	研修「第79回 全国都市問題会議 ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略 新しい風をつかむまち」
調査(研修)結果等の概要	別紙報告書の通り
備 考	

## 第79回 全国都市問題会議

ひとつがっなぐ都市の魅力と地域の創生戦力 新しい風をつかむまち

参加者 松永 征明

日時 平成29年11月9日から10日

場所 那覇市県立武道館



### 議題解説

全国の都市自治体において、まちづくりの未来を予感させる・新しい風・が吹いている。そのひとつが「ひとの動き」の活発化である。

昨年、訪日外国人数が初めて、2,000万人を超え大きな話題となった。

政府は、2020年に訪日外国人数を4,000万人にすることを目標に揚げており、今後もさらに訪日外国人が増加していくことが期待されている。

一方、国内の動きに目を向けると、東京圏への転入超過数が5年振りに減少に転じ、地方移住が注目されるなど「ひとの動き」に変化の兆しが見られる。

また、ひとの動きの活発化をもたらした要因として「価値観の多様化」を指摘することができる。

観光に目を向けると、従来のような集客施設や観光資源をめぐるツアー観光から、まちを歩き地域の文化や歴史に触れ、住民との交流を楽しむ体験型・滞在型観光へとトレンドが変化している。

移住についても、若者を中心として濃密な人間関係や仕事と生活が一体したライフスタイルを志向する意識の変化が指摘されており、いわゆる「田園回帰」が注目されるようにな

った。

こうした変化の根底には「ひとのつながり」の価値の再認識があるように思われる。社会・経済状況の変化に伴い、地域の支え合いが改めて重要視されるようになった。本格的な超高齢化・人口減少が到来するなかで、全国においてひとの動きの活発化、その動機や目的（価値観）の多様化といった「新しい風」をつかみ都市をさらに発展させていくことが求められている。

今回の第79回全国都市問題会議では「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略」をテーマとした都市の魅力・ひとがつなぐ・地域の創生というテーマに内包されたまちづくりのキーワードについて考え議論が進められた。

### 『基調講演』

#### 多様性のある江戸時代の都市

東京大学史料編纂所教授 山本 博文

江戸時代の各地方・町の特徴は、江戸に象徴される都市の強大化に対する城下町、宿場町、門前町、港町など多様なまちの発展である。

参勤交代で街道が整備され宿場町や門前町が栄え、人や品物の流通が進み商業、経済、観光などの繁栄をもたらした。

まさに参勤交代の制度が全国各地の特徴ある発展をもたらし、豊かで均質な地方文化を創り出したと言える。

しかし、幕末この制度が廃止され、明治期以降中央集権国家の形成と近代化の流れの中で、豊かな地方の均質性が失われ都市と地方の格差が生まれ大きくなり現在に至っている。最近の流れとして、江戸期に培われた城下町や門前町などを再興し地域振興を目指そうとする動きが全国的に活発になりつつある。

現在それぞれ豊かで均質な地方の再生に向け、嘗ての参勤交代制度が思わぬ形で寄与している。

### 『主報告』

“ひと つなぐ まち”－新しい風をつかむまち－

沖縄県那覇市長 城間 幹子

那覇市は、沖縄本島の南西部海岸に位置し、古くから東南アジアの各都市を結ぶ交通の要衝地点として発展してきた歴史を踏まえ、「ひととひととのつながり」をキーワードとしてまちづくりを進めている。

取組みとしては、

- ① 観光客も地元市民も楽しめるまちの創造として、第一牧志公設市場の建て替え、農連市場地区の再開発、新文化芸術発信拠点施設の建設を進め、沖縄の文化や徳産を生かした中での交流を進めている。

② 子どもの貧困対策や健康寿命の延伸、LGBT などマイノリティの尊重などを含め、子育て・福祉など幅広い分野で小学校区やそれぞれの分野を単位としてボランティア活動を進め、そのために新たな地域リーダーの発掘・養成を行い、行政と民間が一体となったまちづくりを進めている。

こうした取組みを新たな礎とし、ますます魅力ある「ひと つなぐ まち」の創造に取り組んでいる。

### 『一般報告及びパネルディスカッション』

一般報告としては、山下祐介（首都大学大学院人文科学研究科准教授）氏が「人口減少社会の実像と都市自治体の役割 人口とインフラの適正な持続的配置は可能か?」、蝦名大也（釧路市長）氏が「自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり」、下地芳郎（琉球大学観光産業学部長・教授）氏が「新たなステージに入った沖縄観光 複合的な魅力を有するハイブリットリゾート」というテーマでそれぞれ講演を行った。

またパネルディスカッションでは、後藤晴彦（早稲田大学理工学術院教授）氏が「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略 新しい風をつかむまちづくり」、能作克治（株式会社能作代表取締役 本日は代理）氏が「産業観光による地方再生」、藤田とし子（まちとひと感動デザイン研究所所長）氏が「人と人がつながり、共感で響き合う まちの魅力と新たな地域価値の創造」、平田大一（沖縄文化芸術振興アドバイザー）氏が「感動立県おきなわ！をめざして 感性・文化産業と沖縄感動産業戦略構築への道」、山岸正裕（福井県勝山市市長）氏が「ふるさとルネッサンス 16年の軌跡」、染谷絹代（静岡県島田市市長）氏が「人を育て・人が育つまちづくり 協働・連携の中で」というそれぞれのテーマで活動報告を行い、「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略」について意見を述べた。

全体としては、今あるもの、即ち歴史的、文化的、地理的などその地域の成立要件、特徴、強みをもう一度見直し、そこからひとづくりとまちづくりの在り方を考えるというものであり、これを起点にそれぞれの方向性をもってひとやもの交流を最大限に引き延ばすことが今日のまちづくりに求められている。

具体的な事例は今回の会議でも非常に豊富で示唆的であったが、釧路市にあってもまちづくりの情熱はどのまちにも負けないので、もう一度わがまちとひとを今までとは違った角度や次元で見直しを図らなければならないものではないか。

そして、その謂わばパラダイム転換こそが非常に重要であるように思われる。